

町の生活情報紙
—IDE PUBLIC RELATIONS—

広報いいいで

5

15, May
2014
Vol.1046

世界を広げる
笑顔で 握手で
Nice to meet you!

写真／添川小学校の「朝の英語活動」で
子どもたちに英語を使ったコミュニケー
ションを教える茂木栄子さん（添川）。

- 03 豊穡の地の未来を拓く
「飯豊・農の未来賞」最優秀論文決定
- 06 飯豊町地域福祉計画（計画期間：平成26～30年度）
- 08 地区公民館の事業計画
中部地区・白樫地区・東部地区・西部地区・中津川地区
- 10 まちかどNEWS
町民の歌「いつも心に」の歌詞ファイル贈呈／飯豊町鳥獣被害対策実施隊員委嘱状交付式／町消防団辞令交付式 ほか
- 12 まちかどスナップショット
- 13 表彰者の紹介 がんばりの軌跡
- 14 直伝おふくろの味
- 15 子育てファイル／あ～す図書室情報
- 16 ようこそ！わたしたちの倶楽部に／町長の見て歩き
- 17 健康 ikiiki プラス
- 19 お知らせ／戸籍の窓／人の動き／編集後記
- 20 第2回心の古里いいでフォトコンテスト
「五月のふる里」

町のホームページから さらに情報を！

町からのお知らせや情報は飯豊町ホームページにも掲載しています。大きなアイコンとすっきりしたデザインで、だれでも見やすく、欲しい情報が簡単にさがすことができるように工夫されています。どうぞアクセスし、生活情報に役立ててください。



www.town.iide.yamagata.jp



the most beautiful
villages
in japan

「日本で最も美しい村」連合

飯豊町は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。これからも美しい景観と里山文化に磨きをかけていきます。

今月の

表紙



授業の締めくくりのハイタッチも笑顔

エンジョイ コミュニケーション

5月12日、添川小学校で、海外生活の経験豊富な茂木栄子さん（添川）が講師役の「朝の英語活動」が行われました。茂木さんによる英語活動は今年で12年目。息子さんが1年生のとき、担任の先生から願われたことが始まり。当初は各学年に毎月1回程度、現在は低学年と中学年に隔月でレッスンしています。「臆せず、外国人とのコミュニケーションを楽しめる気持ちを育てたい」と茂木さんは話します。



写真 / 4月6日、最優秀論文の表彰式および発表会の会場

細野武司 審査委員 (株)フィデア総合研究所理事
 後藤幸平 町長
 松尾雅彦氏 受賞者
 大泉一貫 審査委員長 宮城大学副学長
 遠藤敬治氏 受賞者
 梅津敏彦 審査委員 山形県農業総合研究センター所長
 ※審査委員の下段は審査委員会時の役職名

豊穡の地の未来を拓く「飯豊・農の未来賞」最優秀論文決定

明治の初頭、世界的な旅行作家イザベラ・バードが、「東洋のアルカディア」と絶賛した田園散居村。昨年度、この美しく豊かな田園散居村を未来に繋いでいくという想いから、本町の農業振興に反映させる「飯豊・農の未来賞」を創設し、企画提案論文を全国に募集しました。

応募総数は23編。遠くは北海道、京都や大阪から応募がありました。3月16日の審査委員会で、最優秀論文2編が決定。4月6日、物産館で最優秀論文の表彰式と発表会が行われました。

最優秀論文の概要をお伝えいたします。

※全文は町ホームページに掲載しています。または役場農林振興課で配布しています。
 なお、選外の論文は農林振興課で閲覧できます。



まつ お まさひこ
 松尾雅彦氏 (東京都杉並区)
 昭和16年生まれ。広島県出身
 昭和40年慶応義塾大学法学部卒業
 昭和42年カルビー株式会社入社
 代表取締役社長や代表取締役会長などの要職を歴任。現在は相談役
 平成17年NPO法人「日本で最も美しい村」連合の副会長就任
 平成20年食品産業功労賞受賞
 平成25年農水省外郭団体「新品種産業化研究会」会長就任



えん どう よしはる
 遠藤敬治氏 (飯豊町添川)
 昭和22年生まれ。北海道出身
 昭和48年山形大学農芸化学科卒業
 同年山形食品株式会社南陽工場入社
 工場設立や大手飲料の受託製造・品質保証業務に従事され、製造部長や工場長などの要職を歴任
 平成15年常務取締役就任
 平成19年退任。家業の米作りの傍ら、山形県立農業大学校で食品産業特別講義の外部講師を務める

自立した“アルカディア”から 日本一幸せな町への挑戦

執筆：遠藤 敬治

論文導入部

○現代の食。その果てには突然の食糧危機

多くの作物が最も安く生産されるところで作られ、それを求める地域へと輸送し消費される現代の食システムは、消費者が享受する効用価値で価格水準が決められ、さらに希少性や投機による需給関係で食品価格が変動する。しかし、食料はお金を払えばいつでも手に入れられるものとは限らない。穀物相場が高騰したり、絶対量が不足したら、たちまちお金があっても手に入れられない命にかかわる希少財となる。国内の食料自給率が下がっても、太い輸入のパイプを作っておけば大丈夫という楽観的問題ではないと考える。

近代農業はエネルギーを大量に使って機械化や化学肥料、農薬の多投で飛躍的に生産力を高めてきたが、これからは石油エネルギーの高騰・枯渇という難問に直面する。水資源も同様である。都市化、工業化、世界人口の増加に加え、環境破壊や異常気象によりクリーンな水系、水資源は地球上で徐々に減少し、すでに商業資本により買い占められている。

現在、地球上で耕作可能な耕地面積は一人当たり既に0.11haを切っている。1kgの牛肉を作るために11kgの穀物飼料を必要とする食肉消費量が、中国や発展途上国で急増して穀物飼料の需要が高まって来ている。また、バイオ燃料とする穀物生産も増大している。今後、主食となる穀物生産はますます投機の商品として逼迫して行くことが予想される。今や世界的に見れば耕作可能な耕地、豊富な水、安価なエネルギー、そして安定した気候という、農業生産にとって最も基本的な前提条件はすでに崩壊しつつある。

私は、あと10年はグローバル化による現代の食システムが存続できても、20年後には食糧争奪により、豊かさに関する捉え方を根本から変えざるを得ないパラダイムシフト（価値観の転換）が来ると予想する。命にかかわる農産物に関してはリスクを過小評価せず、今から最悪の仮説に基づいた危機予測により変化に適応して行かねばならない。このままいけば町の近未来（20年後）はどうなっているかという仮説を基に、町の理念と目標を明確にした10年計画を立案することを提案する。地域住民と未来への夢と危機感を共有し、住民自治と行政の協働による個性のある地域作りと変革が望まれる。未来に向け住民が安定した生活基盤で豊かに暮らせる「自立したアルカディア」となるために徹底したマネージメントを町に期待するものである。

提案する構想

これからの地球環境の変化による食糧危機や非常時の「もしかしたら」のことを考えると、命を支える最低限の食料は自らの責任において自給して自立を目指すのが人間本来の姿であり、これからの持続的なライフスタイルだと考える。また自然とのつながりは人間にとって基本的なニーズである。都市生活者も自ら生産に参加したり、生産者とのつながりを持って安全な食料を確保する道を作ることは危機に備えた手段としてこれから必要不可欠な事となるのではないだろうか。自然環境を保全し地域が自立して行くためには自給自立的農業による地域食料自給率の向上と、都市生活者との自給自足のコミュニティによる地道な連携への取り組みが飯豊町の「農の未来を拓く」戦略となる。

具体的提案（タイトルのみ）

危機は突然やってくる。今まさに危機予測による町の変化適応能力が問われている。20年後の危機（仮説）に基づいた戦略とアクションプランを提案する。

- ① 飯豊町のポジショニングの明確化と“めざみの里”ブランドの確立
- ② 「環境トラストプロジェクト」による相互信託のコミュニティ
- ③ 「町営農センター」（仮称）が窓口となる土地利用マネージメント
- ④ 若い担い手集団の「未来塾」によるイノベーション
- ⑤ 堆肥センター（仮称）の良質堆肥の供給と「飯豊土作りプロジェクト」運動
- ⑥ 町全体の[＊]コモন্ズの機能的つながり整備（戦略的デザイン）
- ⑦ 加工コモন্ズの活性化（地域食料自給率の向上）
- ⑧ 日本一幸せな町づくりスローラブリ－ホームタウン

※人々が楽しめ、そこから価値を引き出すことができる結び付きや集合体

いよいよやってきた、豊穡の地 飯豊町活躍のチャンス！ 30年かけて、めざすは「アルカディア」

執筆者：松尾 雅彦

論文導入部

○日本の農山村が置かれている現状

全国の市区町村を人口を基に3つに分類（大都市部、農村部、左記の中間部）し比較すると4つのジレンマが見えてくる。農村部が激しい人口減少に見舞われていて、さらに高齢化が伝えられている。私は、世界の農業の実情や農村の成功事例を数多く観察して、日本の農村を衰亡に追いやっている事情には、複数のジレンマが絡まっている日本経済の運営に真因があることに気づいた。

①東京の「重商主義者」が農村政策を作っているというジレンマ

日本の主食糧の米は品種改良や技術改善に努力した結果、1970年代初頭には供給過剰に突入した。「米を作らなければ補助金がもらえる」という、農家の意思に反した減反政策が実行された。なぜこのような状況に陥ったのか？重商主義（市場経済とそれを補完する「再分配」）と重農主義（自然法に立ち理想的な循環型社会）の論争が分かりやすい。重商主義の常識に漬かった大都市東京で、自然界の法則を重視しない政治家や官僚、財界人が農村政策を作っているということこそ、最大のジレンマなのである。

②食料供給過剰時代に農村が市場経済に頼っているというジレンマ

食糧の供給過剰は、供給側の農村にとって「市場経済は有効ではない」という自明の結論に行き着く。需給調整を「市場」に依存している限り農業者に春はこない。今日の日本では、大都市の産業には成長余地が少なく、農村部にこそ投資の機会が数多く眠っている。TPPは衰退する農村の絶好の反転機である。食糧生産のグローバルゼーションは今後も永続する。それを覚悟して、食・住・エネルギーの地産地消が成り立つ、自立した特色ある地域、「自給圏」を構築することが根本的対策である。

③供給者対策が全国一律に展開されるというジレンマ

1980年代に農水省は「地産地消」を政策としたが、今再び「消費地生産主義」を声高に進めなければ、貿易収支の赤字が拡大し、経常収支の赤字化を招き、国債の信認を失うことになる。消費者の購買行動で全てが決まるのに、今の政策は供給者対策（農業政策）に汲々とし、しかも全国一律で作物を支援し、農家が精励すればさらに過剰となり価格は暴落、農家は被害を被る。

④過剰になった水田を畑地に転換できないというジレンマ

全国で約100万haの水田が過剰で休耕田となっており、維持するために莫大な国費をかけている。20世紀に稲作の反収は200kgから600kgと3倍にもなった。需要が変らなければ必要な圃場は1/3になる（実際には需要は半減）。問うべきは、過剰になった圃場で何を耕作するか、だ。このとき農家は初めて、国家やおコメに捉われなくて自由奔放な耕作に取り組める。ジレンマは、「瑞穂の国」と称えた水田に対する郷愁や稲作文化礼賛などで過剰になった水田を畑地に転換できないでいることだ。発想の転換が迫られている。

提案する構想

低地に水田、傾斜地に畑地、山間に放牧地を持てば、多くの作物を耕作出来る。さらに飯豊山系や田園散居集落は誇るべき「世襲財産」である。宝を持ち腐れにしないで、村民が近隣の置賜地方の人々と広域連携ができれば「置賜スマート・テロワール」となる。めざすはふたたび「アジアのアルカディア」。

具体的提案（タイトルのみ）

夢を実現するのは人である。町の地域志民と外からの目で、夢を形にする仕組みから一步を踏み出そう。夢を語り合う場のヒントにしていれば幸いである。

- ① 過剰な水田を畑地と草地に転換
- ② 町の中心部に賑わいマルシェを
- ③ 「木のまち」のすすめ
- ④ おしゃれな「飯豊シャトー」を作り、
ガストロノミー革命に乗ろう
- ⑤ 産地認証制度を展開



計画策定委員会の様子



4月30日、舟山兵八郎計画策定委員長から後藤町長へ計画書が手渡された

すべての住民が住み慣れた
家庭や地域で安心して暮ら
すために



計画の3つの基本目標

1 みんなで支え合う地域づくり

地域福祉を推進する上で最も大切なことは、住民同士が支え合い、助け合う仕組みをつくることです。子どもから大人まですべての住民の福祉意識を醸成するとともに、身近な地域での見守り体制を構築します。また、そのような住民や地域が主体となって取り組む活動を支援します。

- (1) 福祉意識の醸成
- (2) 地域での見守り体制の構築
- (3) 住民活動への支援
- (4) 関係団体への支援

2 福祉サービスを利用しやすい仕組みづくり

福祉制度の改正等が毎年のように行われていることから、相談体制の充実とともに、必要とする人への確に情報が届くよう、さまざまな方法による情報提供に取り組めます。また、サービス提供事業者や町社会福祉協議会との連携のもと、福祉サービスの充実を進めます。

- (1) 相談体制・情報提供の充実
- (2) 在宅介護への支援
- (3) サービス提供基盤の充実

3 安心して暮らせる仕組みづくり

誰もが住み慣れた地域で、生き生きとした生活が送れるよう、子育て支援、健康づくり・介護予防、生きがづくりなどを充実します。また、移動や買い物などの生活支援や災害発生時の支援体制づくりに取り組めます。

- (1) 生き生きと暮らせる仕組みづくり
- (2) 安心して暮らせる仕組みづくり



計画の位置づけ

第4次飯豊町総合計画

「田園の息吹が暮らしを豊かにするまち」

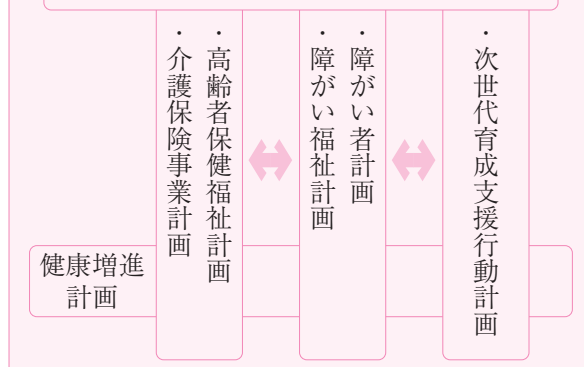


7つの基本計画の一つ

生きがいと笑顔のまちづくりに関連する福祉分野等計画

地域福祉計画

住民・地域・サービス提供事業者・町社会福祉協議会・関係機関・行政などの協働によって地域福祉を推進していく指針



問合せ先／町健康福祉課

☎86-2233 FAX86-2230

<http://www.town.iide.yamagata.jp>

概要版

飯豊町地域福祉計画

(計画期間：平成26～30年度)

「飯豊町地域福祉計画」を策定しました。

この計画は、昨年7月から計画策定委員会を中心に、皆さんへのアンケート調査や住民座談会開催、地域福祉関係団体からの意向調査などを行い、その内容を検討してきました。

今年3月に策定しましたので、概要をお知らせいたします。詳細は、町ホームページ、または町健康福祉課内でご覧いただけます。



地域福祉計画策定の目的

近年、少子高齢化、就労環境の変化や核家族の増加などにより、ひとり暮らし高齢者や障がいのある人、子育て家庭など手助けや介護などの支援を必要とする人が年々多くなってきています。また、虐待や引きこもりなど新たな社会問題が見られるなど、社会の状況も大きく変わってきているため福祉のあり方も変えていく必要があります。

また、町では、これらの問題に加え、住民の福祉に対するニーズも多様化してきていることから、これまで行政が行ってきたサービスだけでは十分な対応が難しくなっています。

これらの福祉課題に取り組むために「支え合い」「助け合い」を基調に、すべての住民が住み慣れた家庭や地域で安心して暮らすことができるよう、住民等との協働のもとに地域福祉を推進することを目的とした「飯豊町地域福祉計画」を策定しました。



地域福祉とは

「第4次飯豊町総合計画」の基本理念では、住民参加型のまちづくりから住民と行政のパートナーシップ型のまちづくりへの発展とともに、住民と行政が協働でまちづくりを進めるという考え方から、両者の機能が活かされるような新しいまちづくりの仕組みを作り上げていくことを目指すとしています。

このため、多様な担い手がそれぞれの特性を活かした役割分担の下に、生活課題の解決にむけて努力していくことが重要であり、自助「自分の責任で自分自身が行う」、共助「身近な人間関係や地域の中で住民同士が助け合うこと」、公助「公的機関が行うこと」が適切に連携し、地域全体で支え合い、助け合うまちづくりを進めることが求められています。

こうした地域社会を基盤とした福祉のあり方が、「地域福祉」といえます。



計画の基本理念

全国的に都市化が進み、人と人とのつながりが薄れていく傾向にある中で、本町には豊かな自然、人の温かさ、郷土愛、地域連帯意識が残っています。しかし、就労環境の変化、世帯構成員の減少、家族機能の低下などにより、手助けや介護などの支援を必要とする人が増加するなど、地域での相互扶助機能を再構築することが必要となっています。

昨年9月に実施したアンケート調査での地域福祉の充実に向けた住民と行政との関係については、「協力し合い共に取り組む」や「住民同士の助け合いに行政が援助する」が高い割合を示しました。また、住民同士の自主的な支え合いや助け合いの関係が必要といった意向は、すべての年代で高い割合を占め、住民が主体となった関係についての意識の高まりが感じられます。こうした意向を踏まえ、住民による隣近所や地域での支え合いと助け合いを基調に、福祉によるまちづくりを推進していくことが重要です。

これらを踏まえ、本町では住民、地域、サービス提供事業者、町社会福祉協議会、行政などがそれぞれの役割分担のもと、協働して地域福祉を推進する取り組みを展開していきます。

平成26年度

地区公民館の事業計画

地域の活性化と生涯学習の振興を目指して

各地区公民館では、それぞれの地域の特色を生かしながら、地域の活性化と生涯学習の振興を目指した事業を展開しています。

ここでは、平成26年度の事業計画の中から主なものを抜粋して紹介していますが、そのほかにも幅広い年齢層に合わせた様々な事業が計画されていますので、ぜひ多くの住民の皆さんが参加し、地区公民館を拠点として地域を盛り上げていきましょう。

各地区公民館の最新情報はホームページから<http://iide-kouminkan.jp>



中部地区公民館

地域のコミュニティづくりの拠点として、地域住民主体の運営活動を支援するとともに、社会教育の推進を図り、地域づくり、健康づくりを行います

スタッフ

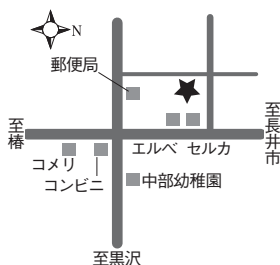


公民館長 (写真中央)
佐藤正俊 (萩生)

運営委員会事務局職員
渡部弘之 (中)
嶋貫 恵 (中)

連絡先

大字萩生3548
TEL72-2126
FAX72-3550
E-mail: tyuubuko@e.jan.ne.jp



主な事業計画

事業	内容	時期
子ども(かかし)祭り	子ども会育成会、分館、各地区協議会など地域の各団体から協力をいただき、協同作業の教育を実践	未定
しろあと教室(高齢者教室)	研修会、ボランティア、子ども(かかし)祭り参加、作品制作、グラウンドゴルフ大会、しろあと文集制作など	年間
婦人学級	研修会、ボランティア、クリスマス会、生け花、茶会、講演会、文化祭出展など	年間
文化祭	各団体から作品展示や芸能発表をしていただき、地域の文化・芸術への親しみを深める	10月26日 ~27日

白椿地区公民館

自主的な学習の推進と生涯学習活動の拠点として役割の充実を行います

スタッフ

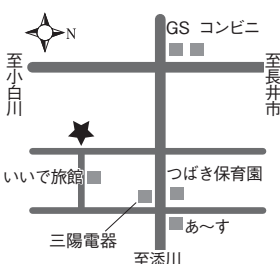


公民館長 (写真中央)
五十嵐一男 (小白川)

運営委員会事務局職員
鈴木 孝 (小白川)
川崎てい子 (椿)

連絡先

大字椿1902-4
TEL72-2242
FAX72-3551
E-mail: tubakiko@e.jan.ne.jp



主な事業計画

事業	内容	時期
白椿地区リサイクル会	「環境・健康を考え実践」。手軽な方法で生ごみを良質な堆肥に変えごみの減量に役立て、その堆肥を利用した健康野菜作りの推進に取り組む	年間
青年活動の育成	青年層の連帯を深め、社会参加を目指すとともに、自主活動の促進と青年教育の振興を図る。青年会主のイベントなどの活動支援を図り地域活性化を目指す	年間
芸術文化	芸術文化に親しみながら教養を高め、心豊かな優れた文化の地区を目指す	年間
社会体育	健康と体力づくり、地域の連携意識高揚を目指す。また、スポーツクラブとの連携で運動の日常化を目指す	年間

東部地区公民館

健康的、文化的に暮らしを豊かにする知恵と力を身に付けるような生涯学習を展開し、「いつでも だれでも なんでも参加できる魅力ある公民館」を目指します

スタッフ

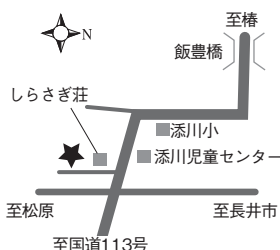


公民館長 (写真中央)
遠藤和芳 (添川)

運営委員会事務局職員
樋口兼利 (添川)
遠藤節子 (添川)

連絡先

大字添川2955
☎74-2447
☎87-0447
✉toubuko@e.jan.ne.jp



主な事業計画

事業	内容	時期
食育教室	P T A・児童センター・育成会等と連携し、食育子どもミュージカルの公演を行い、食に対する適切な判断力を養成し心身の成長と人格の形成に資する	6月
わら細工教室	わら文化の伝承活動を通じた高齢者と子どもたちとの交流、学校教育の補完と高齢者のスキル維持に努める	10月
添川温泉ふるさと祭り	住民が一堂に会し、地域の連帯感と活性化を図る	8月14日
地区・小学校合同大運動会	地区住民と小学校が一堂に会し、健康、体力づくりを目指すと共に、住民と学校との交流、親睦を深める	9月7日

西部地区公民館

地区民主導の運営を積極的に推進しながら、地域の独自性を大切にしたい、社会教育、生涯学習、スポーツ振興、芸術文化振興を図り、豊かで活力ある地域社会づくりに努める

スタッフ

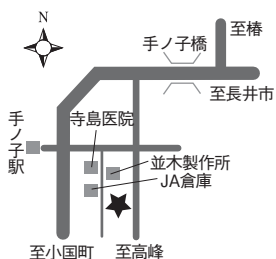


公民館長 (写真中央)
五十嵐眞 (手ノ子)

運営委員会事務局職員
高橋 孝 (高峰)
巻坂恵美子 (手ノ子)

連絡先

大字手ノ子2861-1
☎75-2111
☎75-2273
✉seibuko@e.jan.ne.jp



主な事業計画

事業	内容	時期
体育スポーツの振興	スポーツを通して地区住民の健康、体力作りを図り交流親睦を深めながら活力のある地域作りを目指す西部スキー教室など	年間
生涯学習の推進	各世代が自由に、継続的に活動できる学習機会を推進する。高齢者の地域社会の積極的な参加と生きがいのある活動を展開する	年間
芸術文化	発表の場を提供し活動意欲を高め、地域住民総参加を目指す	年間
特色ある地域づくりの推進	地域の歴史。伝統を尊重しつつ特色ある地域づくりの推進を図る	年間

中津川地区公民館

誰もが気軽に足を運べる公民館を目指し、学習機会の提供、地域の各種団体の連携および地区内の交流推進を図ります

スタッフ

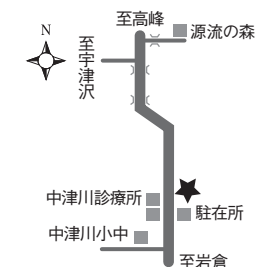


公民館長 (写真中央)
大友俊治 (川内戸)

運営委員会事務局職員
伊藤ふみ (岩倉)
細川由貴 (上原)

連絡先

大字上原469
☎77-2020
☎77-2121
✉apurekou@e.jan.ne.jp



主な事業計画

事業	内容	時期
情報の提供活動	地域づくりの多岐にわたる情報の発信基地として館報「あぶれ」の発行	年間
生涯スポーツの推進・健康づくり事業	世代を超えて交流ができる健康づくり事業の実施。地区内でのスポーツ活動支援	年間
生涯学習の拠点としての学習機会の提供	各年代層の期待に応じた講座の開講、情報提供。地区内の各種団体の学習活動の支援	年間
学校教育と社会教育の連携	児童生徒の放課後活動の実施。地区内の行事における学校との連携	年間

まちかどニュースは、皆さんの広場です。
地域のできごとやご意見などお気軽にお寄せください。
役場総務企画課情報防災室まで（直通 ☎ 87-0522）



町民の歌「いつも心に」の歌詞ファイル贈呈

いつも心にマイホームタウン

4月下旬、町教育委員会から町内の小中学生全員に、飯豊町民の歌「いつも心に」の歌詞が印刷されたクリアファイルが贈られました。町民の歌が今まで以上に身近なものとなり、長く歌い継がれることを期待しての贈呈。22日には、第二小学校で佐藤教育長出席のもと贈呈式が行われました。児童を代表して6年生青木陸翔君が歌詞を受け取り、「大切に歌っていきます」と感謝の言葉を述べました。その後、全校児童101名によって町民の歌の合唱が披露されました。

町消防団辞令交付式

地域防災力の中核、消防団



4月6日、あ～すで「町消防団辞令交付式」が行われました。式には、消防団幹部や団員など約100名が出席。田辺隆団長から異動された団員に辞令が交付されました。今年度は23名が退団し、16名が新たに入団。団員の総数は415名となりました。式中、新入団員を代表して第3分団第4部第1班の高橋治憲さん（添川）が、「良心に従って忠実に消防職務の遂行にあたります」と力強く宣誓しました。

飯豊町鳥獣被害対策実施隊員委嘱状交付式

野生動物と折り合いを付ける



4月15日、役場で「飯豊町鳥獣被害対策実施隊員委嘱状交付式」が行われました。飯豊猟友会員23名が隊員に委嘱され、隊長に小松要一さん（萩生）が選出されました。同隊は町の非常勤特別職として、サルやクマなどによる農作物などへの被害を防止するため、その捕獲や追い払い、出没調査などを行います。小松隊長は「委嘱を受け、今まで以上に町民を守る気持ちが強くなりました」とあいさつしました。



町観光協会のインターネット動画放送開始

いい感じ全開!!

4月28日、町観光協会事務所(JR羽前椿駅舎内)に、インターネットを利用した動画放送局「方言全開!!いい感じにTV」が開設し、生放送が行われました。協会職員がパーソナリティーとなり、町内の観光スポットやイベント、祭り、食などを方言たっぷりに紹介。高橋眞観光協会長のゲスト出演や公式ゆるキャラ「ししごん」のお披露目もあり、地域密着の話題に遊び心を加えた見応え十分の1時間番組でした。今後は毎月中旬ごろに放送予定とのことです。

四季の歌“春うた”をうたう集い

春を謳歌



4月12日、あ～すで、個人でも気軽に合唱に親しめる機会として「四季の歌“春うた”をうたう集い」が行われました。講師は、四季の歌ではお馴染みの小松伸子氏と安部里美氏、町芸術文化振興専門員委嘱式に合わせて来町された作詩家村田さち子氏。町内外からの約70名が参加して発声や合唱、歌詞朗読レッスンを受けた後、村田氏が作詩した春にちなんだ曲を伸びやかに歌い上げ集いを締めくくりました。

水仙ロードの手入れ作業

山里に春を告げる共同作業



4月27日、中津川地区で、県道沿いに植えられた水仙の手入れ作業が行われました。この水仙は昭和50年代に白川ダムの湖底に沈む民家の庭先から植え替えられ、長年の地区を挙げた手入れによって延長約10kmに広がったもの。作業には地区住民約90名(地区人口約320名)と、同活動に高い関心を寄せる手ノ子・高峰地区から8名が初参加。事務局の「いつものように」を合図に、県道に分散して手際よく作業を行いました。



東部地区内のお宝をめぐるツアー

知るほどに価値が高まる地域の宝

4月26日、東部地区公民館が主催して、地域の見どころを巡る「お宝めぐりツアー」が行われました。地区住民など約20名が参加して、昨年、地区内全戸に配布されたパンフレット「お宝ガイド」に掲載された28カ所のうち、見ごろのミズバショウ群生地や桜並木、県有形文化財の木造不動明王像など7カ所を巡りました。各地で案内人から説明を受けた参加者たちは「名所が数多い地域だ」「説明で理解が深まった」などと、地域の宝を再認識していました。

まちかど



スナップショット

「まちかどNEWS」で紹介しきれない地域のできごとを1枚の写真でご紹介します

4/6



第54回飯豊ロードレース大会
(飯豊中学校周辺)

4/6



春の交通安全県民運動長井地区
出発式 (長井警察署)

4/12



岩倉地区ほのぼのサロンによる高齢者
への手作り食事の提供 (岩倉公民館)

4/11



農家民宿などへの教育旅行受入
講習会 (中津川地区公民館)

4/11~25



交通安全教室
(町内全小学校)

4/16



自衛官募集相談員(二瓶秀基さ
ん・小白川)委嘱状交付式(役場)

4/14



春の交通安全「しっかり止まってはっきり確認
街頭キャンペーン」(物産館前の国道113号)

4/13



町スポーツ少年団合同入団式
(町民スポーツセンター)

4/28~30



眺山の桜ライトアップ
(眺山小動物公園周辺)

4/24



かもしかクラブリーダー委嘱状
交付式 (役場)

4/20



松原地区によるこいのぼり揚げ
(松原地区白川公園内)

公衆衛生事業功労者表彰

たかよし
小田 俊良さん (添川)



健康的な暮らしの基本
「公衆衛生」

このたび、小田俊良さん(添川)に、厚生労働大臣より、多年にわたる公衆衛生向上活動の功績に対して感謝状が授与されました。

小田さんは、平成10年の上町部落衛生組合長就任以来、衛生改善や環境の美化に積極的に務められておられます。平成11年からは町衛生組合連合会の要職を歴任され、現在は会長として今年で11年目を迎えられる。また、平成20年には置賜地区衛生組織連絡協議会副会長と県地区衛生組織連合会理事になられ、平成24年から現在に至るまで、両連絡協議会の会長として、県下の公衆衛生活動に指導的役割を果たされておられます。



◎平成25年度飯豊町スポーツ振興賞

◆石山芳一(萩生)

◇功労賞

- 永年、萩生地区体育協会理事・会長(現在:監事)として、地区の体育振興に尽力
- 町の各種競技団体における下記の功績
 - ・町野球協会発足時からの理事
 - ・町ソフトボール協会発足時からの理事。この間、審判員の資格を取得し、審判部長として現在に至る
 - ・町陸上協会理事、監査の経歴

◆加藤誠惟(椿)

◇殊勲賞・卓球

- ・平成23年度山形県卓球選手権大会兼全日本卓球選手権大会予選会②
- ・平成23年度全日本卓球選手権大会《小学2年生以下の部》出場
- ・平成25年度山形県卓球選手権大会兼全農杯全日本卓球選手権大会予選会②
- ・平成25年全農杯全日本卓球選手権大会《小学4年生以下の部》出場

◆宇津木奎俊(中)

◇殊勲賞・アルペンスキー

- ・平成25年度JOCジュニアオリンピックカップ2014

《ジャイアントスラローム》出場

《コンビ(ジャイアントスラローム+スラローム)》出場

◆木村由夏(萩生)

◇殊勲賞・バレーボール

- ・平成24年度全日本バレーボール高等学校選手権大会山形県代表決定戦①
- ・平成24年度全日本バレーボール高等学校選手権大会 出場

◆樋口咲希(中)

◇殊勲賞・ライフル射撃

- ・平成22年度国体東北・北海道ブロック兼東北総合体育大会①
- ・平成22年度国民体育大会(千葉県)《10m S 40W》②
- ・平成23年度国民体育大会(山口県)《10m S 40W》②⑥《10m P 40W》②⑩
- ・平成24年度国民体育大会(岐阜県)《50m 3×20W》⑩⑫《50m P 60W》⑨

◆伊藤耕平(添川)

◇殊勲賞・卓球

- ・平成25年度全国私立短期大学体育大会卓球競技《シングル・ダブルス》①

◆佃千里(小白川)

◇殊勲賞・卓球

- ・平成24年度山形県卓球選手権大会兼全日本卓球選手権大会予選会ベスト8
- ・平成24年度全日本卓球選手権大会《小学2年生以下の部》出場
- ・平成25年度山形県卓球選手権大会兼全日本卓球選手権大会予選会③
- ・平成25年全農杯全日本卓球選手権大会《小学4年生以下の部》出場

敬称略



4月25日、東部地区公民館で行われた「町スポーツ振興賞授与式」の様子

直伝おふくろの味



油揚げのカリサク焼き

カリカリ・サクサクの食感と香ばしさが絶妙

【材料】

- ◇油揚げ（長方形） 3枚
- ◇フキノトウ味噌 小さじ2杯
- ◇納豆味噌 小さじ2杯
- ◇サバ味噌 小さじ2杯

【作り方】

- ①油揚げ（長方形）を2等分にして開き、中にお好みの具材を小さじ1杯程度入れる。
 - ②具材が全体にいきわたるように、油揚げの上から軽く押し、まんべんなく広げてのばす。
 - ③フライパンに薄く油をひき、弱火でこんがりときツネ色になるまで焼いたら出来上がり。
- または、180℃の油で30秒ほど揚げる。

【フキノトウ味噌】

フキノトウ（1個）とくるみ（1片）を刻み、味噌（適量）と混ぜ合わせる。

【納豆味噌】

納豆（ $\frac{1}{2}$ パック）と味噌（適量）を混ぜ合わせる。

【サバ味噌】

サバの缶詰（ $\frac{1}{4}$ 個）と味噌（適量）を混ぜ合わせる。

簡単詰めるだけ。

手軽な調理が嬉しい

この料理は、夫が好きなので酒の肴やお茶請けによく作ります。また、簡単なので一度にたくさん作って冷凍保存しています。人が集まるときや急な来客時にもさっと揚げて出すことができるお手軽な一品です。

油揚げは、中に具を詰め過ぎると火が通りにくくなるので手で軽く押し、平たくすることがポイントです。また、冷凍保存しておいた油揚げは、フライパンで焼くよりも油で揚げた方がサクサク・パリパリ感が出てよりおいしく仕上がります。

油揚げの中に入れる味噌の具材はシソの実やミョウガなどもおすすめです。その時々旬のものでたくさん作り冷凍保存しておけば、季節外れに食べたときにまた違う素材の良さが味わえます。冷蔵庫の余りものや缶詰など、好みのいろんな具材でアレンジしてみてください。



中津川地区
食生活改善推進員
中善寺涼子さん



こどもみらい館の予定表
(5月・6月の日程)

会場/☆印は「あ～す」
ほかは「こどもみらい館」

- 5月23日(金) 10:00～ タッチケア (要予約)
- 27日(火) 10:30～ 親子交通教室
- 29日(木) 10:00～ 手作りクッキング (要予約)
- 6月4日(水) 10:00～ 親子エクササイズ教室
- 5日(木) 10:30～ おはなし広場
- 11日(水) 10:00～ 親子エクササイズ教室
- 14日(土) 10:00～ 子育て合同研修会 ☆(要予約)
- 18日(水) 10:00～ 親子エクササイズ教室

手作りクッキング クッキー生地に混ぜるのは、
(よもぎクッキー) 身近に自生するよもぎの葉。
春の香りたっぷりのお菓子
作りを楽しもう。 要予約
5月29日(土) 10:00～

episode

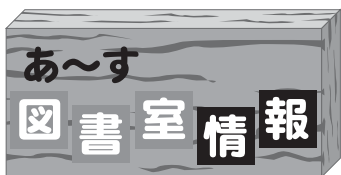
子育て応援
談
kosodate
ouendan

記念日から生まれる家族の輪
椿のKさんより

二人の子どもが小学校5年生と中学校1年生の時に主人を亡くしました。私自身仕事に就いていたこともあり、子どもと過ごす時間は義父と義母の方が多くあったと思います。子どもたちにとっての実家はひとつ。私は嫁ぎ先から離れることなく、家族全員の手で子どもたちを育ててきました。食事は家族そろって同じものを突っつきながら食べ、その日の出来事もおかずにして笑顔で食卓を囲みます。さらに、家族全員がそれぞれの誕生日を知っていて、その日の夜の食卓には欠かさずごちそうとケーキを並べます。誕生日という記念日が家族を思いやるきっかけをつくりあげてくれたのです。記念日から生まれる家族の輪で食卓を囲んでみませんか？

●こどもみらい館 ☎72-3336

開館日/火曜日から土曜日 休館日/月曜日、日曜日、祝祭日
利用時間/8:30～12:00、13:00～17:00



今月の
おすすめ図書



児童図書

魔女カフェの
しあわせメニュー

あんびるやすこ/作・絵 ポプラ社
魔法の庭に、夏がやってきました。ジャレットたちは、ピーハイブ・ホテルで、一日に1時間だけの「魔女カフェ」をひらくことになりましたが…。



児童図書

999匹のきょうだいの
おとうと

木村研/文 村上康成/絵 ひさかたチャイルド
春。998匹の兄弟はかえるになったのに、一番小さなおたまじゃくしはまだしっぽがはえたまま。うらやましそうに池の外を見ていると、ざりがにの赤ちゃんが「お兄ちゃん」と声をかけてきて…。

一般図書

豆の上で眠る

湊かなえ/著 新潮社



13年前に起こった姉の失踪事件。大学生になった今でも、妹の心には違和感が残り続けていた。押さえつけても亀裂から溢れ出てくる記憶と尋ねることのできない問いを胸に秘めたまま…。

一般図書

はじめての
リボベジ&収穫野菜

岡井路子/著 日東書院本社



料理で使った野菜の切れ端や根っこ部分で、もう一度野菜を育てる栽培方法、リボベジ。葉もの野菜や実もの野菜、インテリアになる野菜たちの育て方とレシピを紹介します。野菜を育てるための基礎知識も掲載。

●開館時間 午前9時～午後6時(5月～10月)

※土・日曜日は午前9時～午後5時まで

●休館日 毎週月曜日・祝日

●問合せ先 町民総合センターあ～す図書室 ☎72-3111

ようこそ！ わたしたちの倶楽部に

スポーツ、音楽、芸術、史話、ボランティアなど町内には活動団体がたくさんあります。このコーナーでは、そんな皆さんの活動を紹介していきます。



パークゴルフ

飯豊町パークゴルフ協会

◆会長／横山昇一さん（手ノ子）

◆会員／73名

◆会員募集対象

経験・年齢・性別・住所を問わず誰でも

※今年度より町総合体育大会の種目になります

●飯豊町パークゴルフ協会への入会・見学などのお問い合わせは、伊藤浩一郎さん（事務局長）まで ☎77-2124

◆クラブのピーアール

平成13年に設立し、現在男性66名、女性7名、総勢73名で活動しています。活動としては、月例会、各種大会への参加が主なものです。普段は仲間と共にいろいろなコースで楽しみながらのプレーです。パークゴルフは世代にかかわらず、子供から大人まで気軽に楽しめるスポーツです。生涯スポーツとして、健康の増進、会員相互の親睦を図ることを目的に、愛好者の拡大に努めています。活動を通して、人との交流が生まれ、人とのつながりが広がり、深まっていくことも大きな魅力です。ぜひ一緒に活動してみませんか。入会をお待ちしています。



横山会長にとって
パークゴルフとは…

仲間との出会い
そして人とのつながり

◀横山昇一会長

今では姿を消した流し尻の池に飼う鯉。年に一度の「ゴミあげ」にはバチャバチャと銀色の鱗が光る。杉の葉を池に沈め卵を産ませて育てるところから見ているから愛着が違いうま煮や鯉こくにして炉端を囲んだ。これひとつ食べれば明日身体が大きくなってるぞ、と教えられた。

この四月に食とエネルギーと住いの地産地消を柱に、魅力ある循環型地域社会を創ろうという「置賜自給圏推進構想」が立ち上がった。「飯豊・農の未来賞」受賞の二論文がまたその趣旨に合致する内容であることに驚き感動した。現代人がグローバリゼーションを経験してのちの地域自給圏への着眼である。内向きではない開かれた自給圏構想の展開に熱い視線が集まっている。

「自給」

山菜シーズン到来である。コゴミやワラビ、フキなどは誰でも手軽に採ることができる。直売所に並ぶものは姿形が立派でやわらかく美味しい。散歩の途中に自分で採ったものは、細く硬く、よく採ってきたと喜ばれた記憶はない。しかし、自分で採ったものの味はまた格別である。雪解け後に顔を出す畑の恵みのホープは新鮮な「クキタチ」だ。この世にこれほど柔らかく香りよく旨いものはない。春の火伏の獅子祭りに欠かせない食の風物であり、なしろ秋まきで、春は畑から新緑を摘んでゆでるだけである。

送る。そこでは一粒の種から穀物を育て、野生の山羊から肉や乳、バターを作る物語が描かれている。こうしたサバイバルな冒険の物語に魅せられた子どもたちや若者世代がいたことは、戦後復興という時代背景と無縁ではない。

自給をテーマにするなら自炊にも触れたい。アパート暮らしの初期には真面目にご飯を炊いたりした。しかし、都会の外食に慣れると、ご飯を炊いたまま放置、カビの研究となつた過去を持つ。自炊と台所と自給力は暮らしの基本であり、魅力的な生活の原点であつたはずだ。

連載 随想 町長の思つて歩き

57

後藤 幸平

健康福祉課からの健康コラム

health column

健康に関する身近なテーマを2つ取り上げて、皆さんの健康づくりを応援します。

今月の
テーマ

・睡眠

※
・ロコモ予防



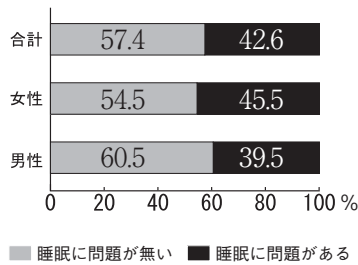
※筋肉や骨などの運動器の障害による要介護の状態や、要介護リスクの高い状態

良い睡眠で体もこころも健康に
(パート1)

今年3月に、「健康づくりのための睡眠指針2014」が厚生労働省より公表されました。良い睡眠には、心身の疲労を回復する働きがあり、睡眠が量的に不足したり、質的に悪化したりすると健康上の問題や生活への支障が生じてきます。また、不眠がうつ病のよくなごころの病につながることもや、睡眠不足や睡眠障害による日中の眠気が事故につながることも明らかになっています。

平成24年度に町が実施した調査では男性の39・6%、女性の45・5%が「睡眠に問題がある」と答えています。

睡眠の質に関する調査



日本の成人の睡眠時間は6時間以上8時間未満の人がおよそ6割を占め、これが標準的な睡眠時間と考えられます。睡眠時間は、日の長い季節では短くなり、日の短

い季節では長くなるといった変化を示します。

夜間に実際に眠ることのできる時間、つまり一晩の睡眠の量は、成人してからは加齢するにつれて徐々に減っていきます。10歳代前半までは8時間以上、25歳で約7時間、その後20年経って45歳には約6・5時間、さらに20年経って65歳になると約6時間というように、健康で病気がない人では20年ごとに30分ぐらいの割合で減少していくことが分かっています。

昔から、年をとると徐々に早寝早起きの傾向が強まり、朝型化します。年をとると睡眠時間は短くなることは自然であること、日中の眠気で困らない程度の自然な睡眠が一番であることを知っておきましょう。

不眠を経験すると、心配になって早くから寢床に就こうとしがちですが意図的に早く寢床に就くとかえって寝つきが悪くなります。その日の眠気に応じて「眠くなったら寢床につく」ことがスムーズな入眠への近道です。また眠りが浅く何度も夜中に目が覚めてしまう場合は、寢床で過ごす時間が長すぎる可能性があります。その対処としては積極的に遅寝・早起きにして寢床で過ごす時間を適正化することが大事だとされています。

ストレッチ編 (パート2)

今回は、腰・背中ストレッチの第2段です。慢性的な腰痛や肩こりのある人にとっては、とても大事なストレッチです。

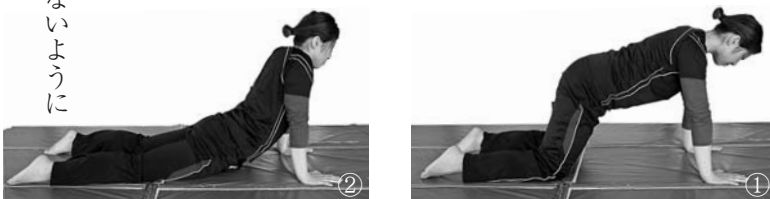
◆腰・背中のストレッチ②

【効果】腰・背中の柔軟性を高める
【回数】一セット5回、一日3セット
①手足を肩幅程度に開いて床につける。

膝はやや後ろに引く。

②息を吐きながら背中を落とし、その状態を十秒間維持。

腹筋が伸びるのを意識する。あごは反らせないように。ゆっくりと姿勢を戻す。



※長時間やりすぎないようにしましょう。

※寝る準備をしながら布団の上で、テレビをみながら座布団の上で：などと、「ながら運動」でもロコモ予防につながります。

飯豊町役場

電話 0238-72-2111

FAX 72-3827

ホームページ www.town.iide.yamagata.jp

Eメール iide-info@town.iide.yamagata.jp



「あ～す」	☎72-3111	社会福祉協議会	☎72-3353	東部地区公民館	☎74-2447
町健康福祉課	☎86-2233	ひめさゆり荘	☎74-2011	西部地区公民館	☎75-2111
介護老人保健施設	☎86-2117	スポーツセンター	☎72-3086	中津川地区公民館	☎77-2020
国民健康保険診療所	☎72-2300	中部地区公民館	☎72-2126	飯豊駐在所	☎72-2245
附属中津川診療所	☎77-2330	白樺地区公民館	☎72-2242	中津川駐在所	☎77-2110

第10回置賜よさこい祭り

- ◆開催日時 / 5月25日(日) 10:00～
- ◆場所 / 南陽市中央花公園
- ◆入場料 / 無料
- ◆問合せ先 / おきたまよさこい協議会
☎090-7527-4351(9:00～17:00)

児童虐待防止推進月間の 標語募集

- 厚生労働省では、児童虐待問題についての理解を深め、主体的な関わりを持てるように意識啓発を図ることを目的として、標語を募集しています。
- ◆標語のテーマ / 児童虐待問題に関し、国民の意識啓発を図るのにふさわしい簡潔で覚えやすい標語
 - ◇参考例 / 平成25年度：さしのべたその手がこどもの命綱
 - ◆応募資格 / どなたでも応募可
 - ◆募集期限 / 6月10日(火)まで
 - ◆応募方法 / 自身が創作した未発表の標語を、郵送または電子メールで応募。詳細は問い合わせください
 - ◆問合せ先 / 厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課虐待防止対策室
☎03-5253-1111 (内線7800)

裁判所見学会のお知らせ

- 山形地方・家庭裁判所米沢支部では、裁判所見学会を開催します。
- ◆日時 / 5月28日(水) 13:10～16:00
 - ◆場所 / 山形地方・家庭裁判所米沢支部
 - ◆内容 / 裁判手続説明、裁判員制度説明、法廷見学など
 - ◆対象 / どなたでも参加可(先着15名)
 - ◆申込方法 / 下記に電話で申し込み
 - ◆参加費 / 無料
 - ◆申込・問合せ先 / 山形地方裁判所米沢支部庶務課 ☎0238-22-2165

人権問題は人権擁護委員に ご相談ください

- 6月1日は、人権擁護委員の日です。人権擁護委員は、人権問題解決のお手伝いや法務局と協力して人権被害者の救済、人権の啓発活動を行っています。
- ◆町内の人権擁護委員による相談会
◇開催日 / 6月6日(金) 8月1日(金) 10月17日(金) 12月5日(金) 2月20日(金)
◇時間 / 13:00～15:00
◇場所 / 白樺地区公民館
◇問合せ先 / 役場住民税務課生活環境室 ☎87-0514
 - ◆置賜地区の人権擁護委員による相談会
◇開催日 / 毎週月曜日・金曜日
◇時間 / 8:30～17:15
◇場所 / 山形地方法務局米沢支局
◇問合せ先 / 山形地方法務局米沢支局 ☎0238-22-2148
- ※なお、上記以外でも法務局職員が随時相談を受け付けています
- ◆電話による相談受付
○みんなの人権110番 ☎0570-003-110
○子どもの人権110番 ☎0120-007-110
○女性の人権ホットライン ☎0570-070-810

善意の毛布をアフリカへ

- 「アフリカへ毛布を送る運動」置賜地区実行委員会では、ご家庭で使わない毛布を、アフリカで必要とする方々に届ける活動をしています。下記日程で、皆さまの善意をお待ちしております。
- ◆お願い内容 / 清潔な毛布の提供、輸送費協力金(1,000円)の寄付
 - ◆日時 / 5月25日(日) 9:00～14:00
 - ◆場所 / 長井市役所前駐車場
 - ◆問合せ先 / 置賜地区実行委員会飯豊地区担当・富永 ☎72-3688

飯豊町消防演習の開催

- 町消防団と消防署では、消防団の資質向上と士気高揚、および有事に備えた消防力を確立し社会公共の福祉増進のために、下記のとおり消防演習を行います。消防団の雄姿をご覧ください。
- また、消防団では団員を募集しています。
- ◆日時 / 6月1日(日) 8:50～12:30
 - ◆場所 / 町民総合センター「あ～す」
 - ◆内容 / 下記のとおり。開始時間は予定です

内容	開始時間
火災防ぎょ訓練	8:50
人員報告など	9:20
観閲	9:30
姿勢・服装の点検	9:40
新入団員・女性団員・中隊訓練	9:50
ポンプ車・小型ポンプ積載車操法	10:20
応急手当訓練	10:40
初期消火訓練	10:55
園児によるアトラクション	11:05
分列行進・防火パレード	11:25
閉会式	11:45

- ※雨天時は変更になります
- ◆入団・問合せ先 / 西置賜行政組合消防署飯豊分署・加藤 ☎72-2222

「刈込み講習会」の 参加者募集

- ◆日時 / 6月3日(火)～6日(金) 9:30～
- ◆場所 / 3日(座学):シルバー人材センター事務所、4日～6日(実技):長井市または白鷹町
- ◆内容 / 防除・肥料などの講話と実技
- ◆対象 / 55歳以上の方
- ◆参加費 / 1,000円程度※実費負担あり
- ◆申込期限 / 5月30日(金)
- ◆申込・問合せ先 / (公社)長井・西置賜地域シルバー人材センター ☎84-4535

こせきのまど
戸籍の窓

(4月届け出分)

ご結婚おめでとうございます

住所 氏名
 (添 川 井 上 博 人さん
 南 陽 市 鈴 木 恵 理 子 さん)

お誕生おめでとうございます

住所 氏名 ご両親
 小白川 細 谷 彪 桃 くん (光 宏 美
 萩生 山 口 姫 奈 ちゃん (竜 範 鶴
 黒沢 渡 部 凜 太 郎 くん (容 平 子)

心からおくやみ申し上げます

住所 氏名 年齢
 中 中西 長 岡 七 郎 さん 85
 岩倉 井 上 孝 さん 90
 添川 中洞 横 澤 俊 平 さん 91
 萩生 石原 嘉 藤 活 壽 さん 64
 萩生 中 睦 後 藤 長 榮 さん 93

※この欄に掲載を望まない場合は届出の際にお申し出てください。

人の動き

4月分 () 内は対前月比				
世帯数	2,392 (0)	転入	17	
人	男	3,782 (-14)	転出	31
	女	4,019 (-3)	出生	3
口	計	7,801 (-17)	死亡	6

第26回いいで黒べこ祭り
前売り券を販売します

最高級の飯豊産米沢牛を準備し、皆さんのお越しをお待ちしています。

◆日時/7月6日(日) 11:00~14:00

※雨天決行

◆場所/どんでん平ゆり園

※入口は正面北側の専用ゲート

◆イベント内容

こくわワイン・どぶろく・地酒の振る舞い、豪華景品大抽選会など

◆前売り券/ファミリーセット(4名分) 13,000円※牛肉・野菜・つや姫

おにぎり・飲み物セット

○販売日/5月27日(火)から

○購入先/JA山形おきたま飯豊支店、畜産団体の役員の方、町観光協会、ゆり園、役場農林振興課

◆問合せ先/役場農林振興課農業振興室 ☎87-0525

印紙税が変わりました

4月1日から「印紙税法」が改正されています。詳しくは、国税庁ホームページをごらんください。

◆領収証などの非課税範囲の拡大

○非課税範囲が受取金額5万円未満のものまで拡大されました

※昨年度までは受取金額が3万円未満のものが非課税でした

◆不動産譲渡契約書や建設工事請負契約書の印紙税軽減措置の延長および拡充

○軽減期間:平成29年度末まで延長

○軽減範囲:不動産譲渡契約は10万円超から、建設工事請負契約は100万円超からに拡大

※昨年度までは1千万円超の契約からでした。また、1千万円超の契約は、これまでより軽減率がアップしました

◆問合せ先/長井税務署 ☎84-1810
ホームページ www.nta.go.jp

全国水源の里
フォトコンテスト作品募集

町も加盟する「全国水源の里連絡協議会」では、フォトコンテストを行います。水源の里は水のふるさとであり、すべての人の心のふるさとです。日本のふるさとを写真に収めて、ご応募ください。

◆応募資格/どなたでも応募可

◆募集作品/平成23年8月以降に「全国水源の里連絡協議会」の市町村で撮影したもの

※詳細は問い合わせください

◆作品のテーマ/水源の里の四季折々の自然風景、人々の生活や祭事、その地域を象徴する風物など、水源の里の魅力が表現されたもの

◆募集期間/6月1日(日)~7月末日まで

◆応募料/1点につき1,000円

◆賞/グランプリ(1名)賞金20万円
ほかに4賞あり

◆応募・問合せ先/全国水源の里連絡協議会フォトコンテスト事務局

☎0773-54-0095

✉suigen@city.ayabe.lg.jp

東北「道の駅」
スタンプラリー 2014開催中

東北「道の駅」連絡会では、東北の道の駅を回って、スタンプを集めるスタンプラリーを行っています。今回は20周年の記念の年。特別企画も盛りだくさんです。さあ、スタンプラリーで東北「道の駅」を巡ろう!

◆賞品応募期限/平成27年1月15日(休)
集めたスタンプの数に応じて、抽選により賞品が当たります

◆完走証明書申込期限/平成28年1月15日(金)

スタンプが140個以上の方にはもちろん完走証明書とステッカーをプレゼント

◆参加方法/東北のすべての道の駅で販売している「スタンプラリーブック」(税込200円)を購入して、東北の道の駅を巡りスタンプを押印する。応募必要数のスタンプを集めたら、東北の道の駅の窓口で応募する

◆応募・問合せ先
東北「道の駅」連絡会 ☎022-398-5518 FAX022-722-3381
めざみの里観光物産館 ☎86-3939

◇5月3日早朝、桜を撮りに白川ダム湖岸公園に出かけた。桜を手前に奥に飯豊山を据えた構図で40枚ほど撮った。せっかくなから対岸に場所を移し、今度は飯豊山をメインに撮影した。長く伸びる稜線とその姿を映す湖面。驚くほど美しい。フレーム内の飯豊山の位置を変えながら撮影している、近くに車が止まり男性が降りてきた。手にはカメラ。少し離れて彼も撮影を始めた。「いいですよ、ここからの眺め」とは口には出さない。だから2人の間には何も起こらない。まったく「オチ」のない話でした。(かつみ)



第2回 心の故里いいでフォトコンテスト

テーマ：ふるさとを感じさせる飯豊の風景、自然と四季・人・花・樹木

入選 「五月のふる里」



ISO400 1/400秒 F14

佐藤秀明審査員の講評

雪と桜と緑が同居するこの地方独特の風景です。気温が上がって雪原をもやが覆っているいい出来の写真です。望遠で遠方の桜と民家を撮ったらどんな写真になるのだろうか。と思うと気持ちがざわつきます。

審査員 佐藤 秀明 氏

日本大学芸術学部写真学科卒業後、世界中の辺境を旅し、自然と人間、文化を独自の視野で撮り続けておられます。

受賞のよろこび

飯豊町内の山村を、天候しだいで四季を通じて楽しませていただいております。

特に中津川地区内はすばらしい山里です。白川湖の春や集落の風景など。なお、この作品は小屋部落です。桜咲く春は晴れた日には連日おじゃまします。まだ残雪がありますが奥へ奥へと足を伸ばし、カメラにも力が入ります。春の若葉や桜がすばらしい魅力です。

松木 勇紀 さん (南陽市)

11

Series

掲載順について
季節に合わせて受賞作品を掲載します